

壁際廃屋葬の研究: 西アジアにおける遊牧的適応の成立過程

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-05-14 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058644

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



壁際廃屋葬の研究：西アジアにおける遊牧的適応の成立過程

A Study of the Façade-side Cairn Burial: A Key to the Pastoral Nomadization in the Near East

課題番号： 16401015

平成 16～19 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）

研究成果報告書



金沢大学附属図書館



1300-04661-9

平成 20 年 4 月

研究代表者 藤井純夫

(金沢大学文学部教授)

壁際廃屋葬の研究：西アジアにおける遊牧的適応の成立過程

A Study of the Façade-side Cairn Burial:
A Key to the Pastoral Nomadization in the Near East

課題番号： 16401015

平成 16～19 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）

研究成果報告書



平成 20 年 4 月

研究代表者 藤井純夫

(金沢大学文学部教授)

著 者 寄 贈

目次

はじめに	1
1. 研究組織	1
2. 研究経費	1
3. 研究発表	2
4. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況	5
5. 研究目的	5
6. 研究経過	6
7. 研究成果	9
8. 今後の課題	10
9. 発表論文・報告一覧	10

はじめに

本冊子は、平成16～19年度の4カ年にわたって実施した「壁際廃屋葬の研究：西アジアにおける遊牧的適応の成立過程」（基盤研究(B), 課題番号13571037）に関する研究成果報告書である。内容は、二つに大別される。前半部分（1～8章）は、所定の様式に基づく研究概要報告である。研究組織、研究経費、研究目的、研究成果などの諸項目を含む。後半（9章）は、本研究課題に関わる発表論文・報告の一覧である。

1. 研究組織

- 研究代表者： 藤井 純夫 （金沢大学・文学部・教授）
研究分担者： 三宅 裕 （筑波大学・大学院人文社会科学研究所・准教授）
 本郷 一美 （総合研究大学院大学・先導科学研究科・准教授）
研究協力者： 安倍 雅史 （リバプール大学大学院、博士課程）
 田中 範裕 （金沢大学大学院文学研究科、修士課程）
 松井 みはる （金沢大学大学院文学研究科、修士課程）
 長屋 憲慶 （早稲田大学大学院、修士課程）
 高松 与理子 （金沢大学大学文学部）
 佐藤 琴美 （金沢大学大学文学部）
 鈴木 香枝 （金沢大学大学文学部）
 齋藤 みすず （金沢大学大学文学部）

2. 研究経費

交付決定額（配分額）

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合計
平成16年度	3,000	0	3,000
平成17年度	3,600	0	3,600
平成18年度	3,400	0	3,400
平成19年度	2,800	840	3,640
総計	12,800	840	13,640

3. 研究発表

本研究の成果は、受理済み・印刷中のものを含めて計 27 件の報告・論文、計 11 件の口頭発表となって結実している（2008 年 3 月 31 日現在）。

■学会誌等

安倍雅史・藤井純夫

2004 「ヨルダン、ジャフル盆地の踏査 - タビュラー・スクレイパー生産の二戦略」日本西アジア考古学会編『第 11 回アジア発掘調査報告会報告集』18-22 頁。

中村俊夫、藤井純夫

2006 「西アジア考古学遺跡発掘資料の放射性炭素年代測定」『セム系部族社会の形成 平成17年度研究報告』82-86 頁。

藤井純夫

2004a 「ヒツジ遊牧の成立と展開 - ヨルダン、ジャフル盆地の総合調査 (2003 年度)」日本西アジア考古学会編『第 11 回西アジア発掘調査報告会報告集』23-32 頁。

2005a 「ヒツジ遊牧の起源と展開：ヨルダン、ジャフル盆地の総合調査 (2004 年度)」日本西アジア考古学会編『第 12 回西アジア発掘調査報告会報告集』26-38 頁。

2006a 「ワディ・アブ・トレイハ：ヨルダン南部の PPNB 遊牧拠点」日本西アジア考古学会編『第 13 回西アジア発掘調査報告会報告集』35-47 頁。

2006b 「定住化遊牧民の集落内氏族配置と墓地・井戸の分有関係 - ヨルダン南部、フセイニーエ村の事例研究」『西アジア考古学』8: 155-164.

2006c 「ベドゥインの置き火直焼き無発酵パン「アルブード」について」藤本強編『生業の考古学』322-337 頁、同成社。

2007a 「ワディ・アブ・トレイハ：ヨルダン南部の PPNB 出先集落」日本西アジア考古学会編『第 14 回西アジア発掘調査報告会報告集』45-51 頁。

2007b 「先土器新石器時代の移牧春営地とダム：ヨルダン南部、ワディ・アブ・トレイハ遺跡の考古学的調査」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』18: 148-161.

2007c 「ヨルダン南部の移牧春営地、ワディ・アブ・トレイハの編年的意義」『西アジア考古学の編年』日本西アジア考古学会, 96-101.

2008a 「新石器時代ヨルダンの移牧春営地：ワディ・アブ・トレイハの第 5 次調査 (2007)」日本西アジア考古学会編『第 15 回西アジア発掘調査報告会報告集』52-60 頁。

2008b 「ベドゥインの「少年の家」 - ヨルダン南部、ワディ・ブルマ東遺跡の調査」『西アジア考古学』9 (印刷中)。

藤井純夫・足立拓朗

- 2007 「ワディ・アブ・トレイハとワディ・ルウェイシッド・アッ・シャルキ：先土器新石器時代の貯留式灌漑用ダム」日本西アジア考古学会編『第14回西アジア発掘調査報告会報告集』52-60頁.

Fujii, S.

- 2004a Harrat al-Burma Cairn Line, Wadi Burma South Carin Field, and Harrat as-Sayyiya K-line: A Preliminary Report of the 2003 Summer Season of the Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 48: 25-50.
- 2004b Harrat al-Burma K-lines and Wadi Burma Kite Site: A Preliminary Report of the 2003 Spring Season of the Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2 (2003 Spring). *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 48: 285-304.
- 2005a Wadi Burma North, Tal'at Abyda, and Wadi al-Qusayr: A Preliminary Report of the of the Jafr Basin Prehistoric Project, 2004. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 49: 17-55.
- 2005b Harrat al-Juyahra Pseudo-settlement: A Preliminary Report of the of the Jafr Basin Prehistoric Project, 2004. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 49: 57-70.
- 2006a Wadi Abu Tulayha: A Preliminary Report of the 2005 Spring and Summer Excavation Seasons of the al-Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 50: 9-31.
- 2006b A PPNB Agro-pastoral Outpost at Wadi Abu Tulayha in the Jafr Basin. *Neo-Lithics* 2/06: 4-14.
- 2007a Wadi Badda: A PPNB Settlement below the Fjaje Escarpment near Shawbak. *Neo-Lithics* 1/07: 19-23.
- 2007b Wadi Abu Tulayha: A Preliminary Report of the 2006 Summer Excavation Season of the Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 51: 373-402.
- 2007c PPNB Barrage Systems at Wadi Abu Tulayha and Wadi Ruweishid as-Sharqi: A Preliminary Report of the 2006 Spring Excavation Season of the Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 51: 403-427.
- 2007d Wadi Abu Tulayha and Wadi Ruweishid as-Sharqi: An Investigation of PPNB Barrage Systems in the Jafr Basin. *Neo-Lithics* 2/07: 6-17.
- 2008a Two Petroglyphs from Wadi Abu Tulayha, a PPNB Agro-pastoral Outpost in the Jafr Basin. *Neo-Lithics* 1/08 (in print).
- 2008b Wadi Abu Tulayha: A Preliminary Report of the 2007 Summer Field Season of the Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 52 (in print)

Fujii, S. and R. Tokunaga

- 2007 A Brief Report on Hismaic Inscriptions from Rus Abu Tulayha in the Jafr Basin, Southern Jordan. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 51: 361-372.

Fujii, S. and M. Abe

- 2008 PPNB Frontier in Southern Jordan: A Preliminary Report on the Archaeological Surveys and Soundings in the Jafr Basin, 1995-2005. *Al-Rafidan* 29: 63-94.

■学会発表

安倍雅史・藤井純夫

- 2004 「ヨルダン、ジャフル盆地の踏査 - タビュラー・スクレイパー生産の二戦略」第11回西アジア発掘調査報告会（古代オリエント博物館）。

藤井純夫

- 2004 「ヒツジ遊牧の成立と展開 - ヨルダン、ジャフル盆地の総合調査（2003年度）」第11回西アジア発掘調査報告会（古代オリエント博物館）。
- 2005 「ヒツジ遊牧の起源と展開：ヨルダン、ジャフル盆地の総合調査（2004年度）」第12回西アジア発掘調査報告会（サンシャインシティ文化会館）。
- 2006a 「ワディ・アブ・トレイハ：ヨルダン南部のPPNB遊牧拠点」第13回西アジア発掘調査報告会（サンシャインシティ文化会館）。
- 2006ab 「定住化遊牧民の集落内氏族配置と墓地・井戸の分有関係：ヨルダン南部、フセイニーエ村の事例研究」西アジア考古学会第12回大会（大正大学）。
- 2006c 「沙漠のドメスティケーション - ヨルダン南部ジャフル盆地の遊牧化」2006年度国立民族学博物館共同研究「ドメスティケーションの民族生物学的研究」（総合地球環境学研究所）。
- 2007a 「ワディ・アブ・トレイハ：ヨルダン南部のPPNB遊牧拠点」第14回西アジア発掘調査報告会（サンシャインシティ文化会館）。
- 2007b 「遊牧と灌漑の年代：ヨルダン南部ジャフル盆地の調査から」第19回名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計シンポジウム（名古屋大学）。
- 2007c 「ヒツジ遊牧の起源：ヨルダン南部ジャフル盆地の調査から」日本人類学会・進化人類学分科会 第18回シンポジウム（京都大学）。
- 2007d 「ヨルダン南部の移牧春営地、ワディ・アブ・トレイハの編年の意義」西アジア考古学会（天理大学）。

藤井純夫・安倍雅史・長屋憲慶

2008 「新石器時代ヨルダンの移牧春営地：ワディ・アブ・トレイハの第5次調査（2007）」
第15回西アジア発掘調査報告会（サンシャインシティ文化会館）。

■その他の出版物

なし

4. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

なし

5. 研究目的

本研究の目的は、西アジアの新石器時代後半（紀元前 6000~4500 年頃）に進行した遊牧化の過程（Pastoral Nomadization）を、初期遊牧民の墓制面から追跡することにある。

遊牧化過程の考古学的追跡は、一般に困難と言われてきた。なぜなら、遊牧民は小集団で頻繁に遊動するだけでなく、テントのような簡易住居に居住するため、生活の痕跡をほとんど残さないからである。遺跡が確認できない以上、考古学の手法も適用できない。遊牧化過程の考古学的研究が困難と言われてきたのは、そのためである。しかし、集落を形成しない彼らも墓だけは造る。しかも、視認性の高いケルン墓（石積み塚）を造る。よって、墓制面からの追跡だけは十分可能であろう。

このような展望の下、本研究が着目したのが「壁際廃屋葬」である。壁際廃屋葬とは、「住居の正面壁直下に家長またはその近縁者の遺体を埋葬し、このことをもって当該の住居を廃棄すると同時に、それに隣接して次の家長のための新たな住居を構築する」という、一風変わった葬制を言う。その典型は西アジア新石器時代の定住農耕集落に散見されるが、より簡略化・形骸化したものは、周辺乾燥域における初期遊牧民の墓域でも認められる。本研究では、この両者間の系譜関係に着目した。定住農耕民に典型的な壁際廃屋葬と、初期遊牧民に固有の擬似的な壁際廃屋葬 -- この両者の系譜関係を基に、西アジア遊牧文化の成立過程をより具体的かつ高い精度で追跡すること、それが本研究の目的である。

6. 研究経過

上記目的の達成のため、ヨルダン南部ジャフル盆地に位置する二つの新石器時代遺跡を発掘調査した。すなわち、先土器新石器文化 C に比定されるハラアト・アル・ジュハイラ (Harrat al-Juhayra) と、先土器新石器文化 B 中・後期のワディ・アブ・トレイハ (Wadi Abu Tulayha) の、二遺跡である。これと平行して、短期間の分布調査および二三の遺跡の試掘調査も実施した。以下は、各年度の調査概要である。

平成 16 年度

計画初年度は、壁際廃屋葬に前後する時期の墓制を再確認するため、以下二つの調査を実施した。

第一は、ジャフル盆地北西端に位置する先土器新石器文化の小型集落遺跡、ジャバル・ジュハイラ (Jabal Juhayra) の地形測量・試掘調査である。調査の結果、1) この遺跡が先土器新石器文化 B 後期に位置づけられること、2) 分水嶺以西の定住農耕地帯に位置する母集落から派生した小型の移牧春営地と考えられること、などの展望が得られた。これによって、ジャフル盆地遊牧化の一つの起点が押さえられた。

第二は、ジャバル・ジュハイラの東側玄武岩台地上で確認された大型葬祭遺跡、ハラアト・アル・ジュハイラ (Harrat al-Juhayra) の発掘調査である。調査の結果、1) この遺跡が、ジャバル・ジュハイラ (先土器新石器文化 B 後期) と、前回の科研で調査したカア・アブ・トレイハ (後期新石器文化) の、中間段階 (先土器新石器文化 C) に位置づけられること、2) 初期遊牧民の造営した墓域であること、3) 壁際廃屋葬の形骸化した形態である「擬住居ケルン墓葬」が行われていたこと、などの事実が判明した。重要なのは、トレイハ型擬住居ケルン墓の直接の粗型 (ジュハイラ型擬住居ケルン墓) を確認したことである。これによって、先土器新石器文化 C から後期新石器文化にかけての墓制変遷が解明され、ジャフル盆地遊牧化過程の後半部分の追尾が可能になった。

平成 17 年度

二年次の調査は、遊牧化の起点となった先土器新石器文化 B 後期の小型集落ジャバル・ジュハイラと、先土器新石器文化 C の初期遊牧民墓域ハラアト・アル・ジュハイラへの、中間段階の様相を明らかにすることを目標とした。この移行期こそが、ジャフル盆地遊牧化の鍵を握っていると判断されたからである。そのため、先土器新石器文化 B の小型集落遺跡ワディ・アブ・トレイハ (Wadi Abu Tulayha) の西 I 区を発掘

し、以下のような結論・見通しを得た。

1) ワディ・アブ・トレイハは、ジャフル盆地の真っ直中に位置する季節的な小集落である。出土石器などの比較研究および C14 測定年代から、先土器新石器文化 B 後期に比定される。遺物出土動物骨の内容や周辺の自然環境から見て、ガゼルなどの野生動物の狩猟を主目的にした季節的な出先拠点 (seasonal outpost) であったと考えられる。ガゼルの幼年個体が多いことやこの地域の水利環境から、春季の居住が予想される。おそらくは、西方の丘陵地帯に位置する本村を起点とする出先拠点であろう。

2) 出土動物骨には、ヒツジやヤギの家畜個体も少量含まれていた。従って、本村と出先拠点を往復する移牧も行われていたと考えられる。これは、現在確認されている限り最古の移牧遺跡である。

3) この集落は、(大型矩形遺構と小型円形遺構で構成される) 住居の基本構成の点でも、また (向かって右から左へ一線的に展開する) 集落形成原理の点でも、初期遊牧民の擬集落 (擬住居ケルン墓の横列連結体) の原型と見なし得る。だとすれば、この小集落で実施されていた季節的な移牧が、後の遊牧化へとつながったことになるであろう。

4) 重要なのは、遺構 G の建物正面壁で壁際廃屋葬の実例を検出したことである (表紙写真)。この発見によって、先土器新石器 B 後期の移牧拠点における壁際廃屋葬が、後期新石器文化の初期遊牧民による擬似的な壁際廃屋葬 (擬住居ケルン墓) へと継承され、その結果、後者に特徴的な擬集落が形成されたという作業仮設の妥当性が立証された。

平成 18 年度

前年度に着手したワディ・アブ・トレイハの発掘調査を、継続実施した。調査は、春季と夏季の計 2 回行った。

まず、平成 17 年度の 3 月から同 18 年度の 4 月にかけて、ワディ・アブ・トレイハの移牧拠点に隣接するダム遺構群を調査した。その結果、1) 移牧拠点の南を流れるワディに沿って計 3 件の石造ダムが建造されていたこと、2) 特徴的な有溝石錘の出土から見て、その年代は、隣接の移牧拠点と同時期 (すなわち先土器新石器文化 B 後期) と考えられること、3) 1 号ダムは、ワディの季節的流水を利用した貯留式灌漑農耕用のダムと考えられること、4) これに対して、2 号・3 号ダムは飲料水確保のための簡易堰と見なし得ること、5) 従って、ワディ・アブ・トレイハの移牧拠点では 2 種類のダムを使い分けていたこと、などの興味ある事実が判明した。重要なのは、ワディ・アブ・トレイハの移牧拠点を支えるために、狩猟だけでなく、ダムを用いた灌漑農耕

が実施されていたことである。本村の経済的枠組みがやや小型化・簡略化されて、そのまま移牧拠点に持ち込まれていたと考えられる。なお、1号ダムと同様の貯留式灌漑農耕用ダムは、同時に調査したワディ・ルウエイシッド・アッ・シャルキ遺跡（Wadi Ruweishid as-Sharqi）でも確認された。

夏季の調査は移牧拠点に戻って、東Ⅰ区、同Ⅱ区、同Ⅲ区を発掘した。その結果、この特異な線状集落は、1) 東Ⅱ区における簡易風よけ遺構群から始まり、2) 東Ⅰ区における「大型楕円形遺構と小型円形遺構の組み合わせ」へと発展し、3) さらに、東Ⅲ区における「大型矩形遺構と小型円形遺構の組み合わせ」へとシフトし、4) 途中、未発掘の区間を挟んで、5) 昨年度に調査した W-I 区の遺構群へと順次廃絶・更新されたこと、が判明した。ただし、遺構 G のような「壁際廃屋葬」は、これらの発掘区では確認できなかった。これは、移牧拠点であるために居住期間が短く、かつ居住人数も少なかったため、死亡率自体が低かったことが原因と考えられる。

平成19年度

前年度に引き続き、ワディ・アブ・トレイハの発掘調査に専念した。本年度は、東Ⅰ区、東Ⅲ区西半、西Ⅱ区、西Ⅲ区の、計4区域を発掘した。

東Ⅰ区は、線状集落の東端を確認するために設定した発掘区である。調査の結果、この区域に遺構が存在しないこと、よって、東Ⅰ区の遺構群が集落の東端を形成していること、が再確認された。

東Ⅲ区の西半は、前年度に作業が中断していた箇所である。この発掘区では、周囲とはまったく異なる「蜂の巣状の建築複合体（Complex 00）」の存在が明らかになった。問題はその年代である。石器（特にイエリコ型尖頭器の卓越）や遺構型式の点から見て、他の部分よりも一時期古い先土器新石器文化 B 中期に比定し得る。だとすれば、ジャフル盆地ではヤギ・ヒツジの家畜化が進行し始めて直ちに移牧が派生したことになるであろう。これは、移牧の歴史を塗り替える新しい発見である。

西Ⅱ区は、線状集落の西端を確認するために設定した発掘区である。この区域では、小型の簡易遺構1件だけが出土した。この遺構は、集落本体とは別の作業小屋ないしは簡易貯蔵施設と考えられる。従って、集落の西端は西Ⅰ区の遺構 K であったことが再確認された。

西Ⅲ区も、線状集落の西端を確認するために設定した発掘区である。この発掘区では、意外な発見があった。それは、集落の東南に位置するダム群とは性質の異なるピット型の貯水槽（遺構 M）の発見である。イエリコ型尖頭器の卓越などの点から、この貯水槽は東Ⅲ区西半で確認された「蜂の巣状建築複合体（Complex 00）」と同時

期と判断された。よって、この線状集落は、「蜂の巣状建築複合体と貯水槽群の組み合わせ」から「二峰性遺構群とダムとの組み合わせ」へとシフトしたことになるであろう。これによって、周辺乾燥域の固定的移牧拠点に多様な水利施設が備わっていたこと、こうした水利施設の存在が移牧を可能にしたこと、が判明した。

7. 研究成果

本研究の目的は、「考古学的痕跡を残さないために追跡が困難とされる西アジア遊牧化の過程を、唯一の手がかりとなる墓制面から具体的に追跡すること」であった。一連の調査を通して、ジャフル盆地の遊牧化過程とそれに伴う墓制変遷に関して、以下のような具体的展望が得られた。

すなわち、1) ワディ・アブ・トレイハの線状集落は一度に構築されたものではなく、東から西へ、順次廃絶・更新されたこと、2) そうした廃絶・更新サイクルの契機となったのが、「壁際廃屋葬（家屋正面壁面におそらくは家長を埋葬し、その家屋を廃絶すると同時に、それに隣接して新たな家長の家屋を設けるといふ、特異な葬制）」であること、3) 移牧拠点で行われていたこの壁際廃屋葬の形骸化したものが、ハラアト・アル・ジュハイラやカア・アブ・トレイハなどの初期遊牧民墓域に固有の擬住居ケルン墓にほかならないこと、4) よって、ジャフル盆地遊牧化の過程は、移牧拠点の壁際廃屋葬から初期遊牧民の擬住居ケルン墓葬への変遷という形で、具体的かつ高い精度で追尾できること、などの展望を得ることができた。

西アジアのみならず、世界史全体の重要課題であった遊牧化の経緯について、一つの具体像を示し得たことは大きな成果と言える。このほか、西アジアにおける移牧の開始が先土器新石器文化 B 中期にまで遡ること、よって、ヤギ・ヒツジ家畜化の時点から直ちに移牧が始まっていたと考えられること、その時点ですでに水槽 (cisterns) やダム (barrages) などの水利施設がステップの移牧先集落に備わっていたこと、などの新事実も明らかになった。これらの事実は、周辺ステップ地帯への遊牧的適応に、農耕をも含めた複合的な生業形態が伴っていたことを示唆している。逆に言うと、新石器時代後半以後に進行し始めた乾燥化によって移牧先での簡易農耕が衰退したために、それを切り捨てた新たな生業形態、つまり遊牧が起源したと考えられる。だとすれば、西アジアにおける遊牧とは、固定的移牧拠点を維持できなくなった後期型の家畜使用形態、と定義できるであろう。このような新たな見通しを得たことも、研究成果の一つである。

8. 今後の課題

今回の調査研究によって、ジャフル盆地における遊牧化の過程をその墓制面から具体的かつ高い精度で追跡することが可能になった。次の課題は、遊牧化の動因自体の解明である。

墓制研究を基に編年を構築したり、遊牧集団の系譜関係を追跡することはできても、遊牧化の動因自体を解明することは難しい。そのため別の視点が必要と模索してきたが、今回の研究でそのヒントが得られた。それが、「移牧拠点における簡易灌漑農耕」の問題である。移牧とは少数の固定的拠点間を往復する牧畜形態を言うが、それを可能にしているのが移牧先での灌漑農耕である。だとすれば、移牧先での簡易灌漑農耕が衰弱し始めた時点で「固定的拠点を維持できなくなった移牧」すなわち遊牧、へのシフトが進行し始めたことになる。従って当面検討すべき問題は、移牧先簡易灌漑農耕の盛衰とその要因であろう。広汎な隣接科学の協力を得て、この新たな視点から、西アジア遊牧文化の起源を明らかにしたい。これが今後の課題である。

9. 発表論文・報告一覧

3章（研究発表）で述べた論文・報告を、順に列挙する。ただし、計27件の論文・報告のうち、受理後・印刷中のもの（藤井 2008b, Fujii 2008a, 2008b）、印刷済みであるが本冊子の作成時点ではまだ手元に届いていないもの（Fujii 2007b, 2007c, Fujii and Tokunaga 2007）、以上6件については割愛した。